

「親子で学ぶ農林水産業見学体験ツアー in 川内・檜葉」を開催しました。

小学生とその保護者を対象に、生産者の皆さんとの交流や収穫体験などを通して、双葉地方の農林水産物に対する安心を深めてもらうとともに、農林水産業の再開状況や取組状況を参加された親子に理解してもらうことを目的に、親子で楽しみながら学べる日帰りバスツアーを令和3年11月14日に実施しました。今回は、新型コロナウイルス対策として、参加者をツアー実施地区の川内村内の親子限定で例年の約半数の定員により実施し、小学生と保護者7組20名が参加されました。

初めに、川内村自動ラック式米低温倉庫を見学し、米の放射性物質検査の方法や自動ラック式貯蔵施設の管理方法について説明を受けました。参加者からは自動ラックに収納されている、米が入った大きな袋（フレコンバック）を見て、「30Kgの袋だと何個分になるのかな。」などと規模の大きさに興味を抱きながら耳を傾けていました。次に、「いわなの郷体験交流館」において、川内村のそばの取組の説明後、町内で生産されたそば粉を使用してそば打ち体験を行いました。打ったそばは、その場で昼食として提供され、自分で打ったそばの舌触りや少し不揃いな形などについて、親子で体験時を振り返りながら食していました。次に、川内野菜勉強会のほ場を訪問し、震災後の農作物栽培の復興の取組や収穫方法の説明を受けて、長ネギ、ダイコン、ハクサイの収穫を体験しました。どれも根張りが強く、一筋縄ではいかず、縦横に揺らし苦戦しながらの抜きとり作業になりましたが、現れた大きな農作物に疲れが吹き飛んだような笑顔が見られました。最後に、木戸川漁業協同組合のサケ梁場、サケふ化場、放射性物質検査機器を見学し、震災時の被災状況、サケ漁の再開状況及び近年のサケ捕獲量の現状、放射性物質検査方法について説明を受けました。今年は近年にないほど、水揚げが少ない年回りとなったため、合わせ網漁を今年度は11月上旬に終了したと説明があり、参加者からは漁が見たかったなどと残念がる声がありました。

参加者からは「子ども達も地元について、さらに知ることが出来よかった。」、「なかなか見学することが出来ない施設や初めての体験に子供も保護者も大変勉強になった。」、「県内産の農作物は放射性物質検査を実施しているため、他県より安全性が高いと思う。地元を応援したい。」などの意見がありました。



米の放射性物質検査の見学



親子そば打ち体験



ダイコン収穫体験



サケふ化場見学